

令和6年度 第3回日進市男女平等推進審議会議事録

日 時 令和6年10月31日（木）午後3時～4時40分頃
 場 所 日進市役所 南庁舎2階 第5会議室及びオンライン
 出席委員 渋谷典子、可児康則、小倉祥子、山田環、原田義弘、横井寿史、
 杉浦健太、塩満綾香、中尾猛、風岡美紀（敬称略）
 欠席委員 加藤豊司、松岡成子（敬称略）
 事務局 小濱美紀（市民協働課長）、栗崎明子（同課課長補佐）、
 荒井有紀子（共生共同係主査）、松田涼輔（同係主事）
 傍聴の可否 一部可
 傍聴の有無 無（0名）

議事及び発言内容

発言者	内 容
	開会
事務局	市民協働課長あいさつ
事務局	審議会概要説明、資料確認
事務局	開会を宣す
会 長	次第に沿って進行
会 長	会長あいさつ
会 長	進行を任されたので、議事を進めていく。
	（1）第3次日進市男女平等推進プラン見直しの進捗状況について
事務局	（資料1に沿って説明）
会 長	意見のある委員はいないか。
委 員	意見なし。
	（2）男女平等に関する市民意識調査における調査項目について
事務局	（資料2・5に沿って説明）
会 長	意見や質問のある委員はいないか。
委 員	意識調査の対象として市内在住満18歳以上が予定されているが、意識調査は働いていて収入のある人、結婚している人を主な対象としているように見受けられる。18、19歳はほとんどが学生であるため、答えづらいのではないか。調査対象に学生は含まれるのか。
事務局	18歳以上は成人扱い、市で行うアンケートについては成人対象のものは18歳以上に揃えている。学生の考えも反映できる項目はあるため、回答してもらう予定。
委 員	職場という文言が、アルバイトを含むのか、曖昧に受け取られないか。
委 員	学生は、アルバイトのことを職場と言っている。職業というと、就職がイメージされる。

委 員	今まで20歳からで調査していたが、学生も含まれていたはず。学生が含まれていたことでどう影響がでていたか分析できると良い。
事務局	前は、学生という属性で分析は行っていない。今回調査ではF3の職業を問う項目で学生かどうか判断ができる。
委 員	設問F5の、働き方を問う項目について、自営業の人は判断が曖昧になってしまいそう。パートタイムや専業主婦（夫）がどういった人なのか説明がないと難しそう。また、専業主婦（夫）という表現は無くして、無職で統一しても良いかと思う。
委 員	リモートワークをしている人は、基本家で仕事をしているため、通勤している人と少し状況が変わるかも。空いた時間で家事など出来るかもしれない。
会 長	F5の項目は、前回はあったか。前は少し違った聞き方をしているとすれば、前回との比較は難しいということか。
事務局	前は、回答者の働き方とその配偶者の働き方を聞いていた。労働時間については聞いていなかった。
委 員	これを聞いて、何を分析するのか。
事務局	共働きの場合とそうでない場合で、家事負担などに影響がでてくると思われる。
委 員	何を求めているかで聞き方が変わってくる。大変難しい。
委 員	選択肢の分け方に意味を感じられない。
委 員	二人ともパートタイムの選択肢が無い。現役世代でも、非正規カップルが増えてきている。フリーランスの働き方なども増えてきている。
委 員	聞きたい項目ではあると思う。子育ての負担感のデータを調べると、専業主婦（夫）世帯より共働き世帯の方が意外と低くでているケースもあり、クロス分析するにあたって有意な項目である。ただ、どう聞かかが難しい。
委 員	それぞれの定義が必要かも。
委 員	週の労働時間で聞いてしまってもどうか。週35時間以上など。他の自治体ではどのような聞き方をしているか参考にしてみてもいいのでは。
事務局	県内の調べた範囲では、労働時間に絞った聞き方をしているところは見なかった。正社員、パートなどといった聞き方が多かった。
事務局	非正規でもフルタイムで働く人もいるため、今回は労働時間に注目し、「雇用の有無・雇用形態を問わず、就業時間を基にご回答ください。」と設問に記載した。
委 員	そう考えると、労働時間で聞いてしまってもいいかもしれない。
委 員	F3の質問をパートナーにもしてみてもよいのでは。
事務局	F3とF5をからめて分析することも検討する。 F5の聞き方については、あらためて事務局で検討する。
会 長	他になにか意見はあるか。
委 員	問6が赤字で新しく追加されていると思う。3つまで答えてもらう設問だ

	が、6が「その他」で7が「ない」であるため、5つの選択肢から3つを選ぶのであれば選択肢が少ないのではないかと。市として、「どれも重要だ」ということを聞きたいのか、「施策の優先順位」を聞きたいのかによっても変わる。順位がある程度ついたほうが分析しやすいのではないかと。
委 員	今回から最も重要なものを1つ選ぶ回答方式を取りやめているが、問題はないのか。
事務局	今まで通りの回答方式だと、今回から導入するWEB回答時に、重要なもの、次に重要なもの、で同じ質問が繰り返し出てくる仕様になってしまい、回答者にとってかなり答えづらいものになってしまう。前回までのような回答方式は難しい。
会 長	選択肢を増やすということも一案かと思う。
委 員	同じく問6について、男女双方にとってどのような取り組みが重要かを問うているが、選択肢は女性目線での内容が多い。
委 員	防災の話がでてきたのは、これまでは男性が中心となっていた防災関係について、女性も参画していく必要があることを言いたいからだと思われる。質問の仕方を変えて、女性がどのようにかかわっていけばよいかを聞いては。
会 長	これまでの防災の考え方をどう変化させていけばよいかという話だと思う。
委 員	女性目線に絞って質問しているから難しい。自分と違う性がどう関わっていくべきかを聞くと分かりやすいのでは。
委 員	「男女双方」という目線で絞ってよいのか、考えてしまう。男女の視点以外のものを加えていっても良いのではないかと。
委 員	いろいろオールマイティに聞くと、聞きたいことがぼけてしまう。設問が立ち上がった理由に焦点をあて、女性の参画について聞いてよいのでは。
委 員	「男女双方」という表現は確かに気になる。
委 員	町内会長など普段の地域の活動で男女共同参画が進むことで防災にもつながっていくと思う。設問を増やすのであれば考えてほしい。
事務局	防災の設問を導入したのは、近年、防災に関する男女共同参画に行政がかなり力を入れているということがある。内閣府から、ガイドラインが出され、各自治体はこれに則って取り組みを進めている。そのガイドラインの中には「男女双方」の視点に配慮するといった表現があり、これが大元にあるため、設問にも使用されている。ただ、男女双方にとってどのような取り組みが重要かを聞いておきながら、女性視点の取り組みに内容が偏っている部分はあると思われるため、設問のバランスなどを検討させていただく。
会 長	ガイドラインの周知をする、などの選択肢があってもよい。 他に意見はないか。
委 員	WEB回答の場合、回答を途中で変更することは可能なのか。
事務局	途中で一時保存も可能なので、修正もできるものと考えているが、確認しておく。
委 員	少し話が戻るが、優先順位をつけた回答方法も、WEBフォームの設定次第

	では可能ではないか。機能制限があるからといって、本来聞きたい聞き方ができないのではもったいないと思う。
会 長	ぜひ方法について検討いただきたい。
事務局	スマホの回答時、紙の調査票と同じレイアウトでは、画面内に収まらず、回答者にとって回答がしづらくなることを危惧している。
委 員	WEB回答は表ではないのか。
事務局	WEBでは表は用いず、紙において表の部分はそれぞれ1行ずつ設問を設けることになる。
委 員	問22の相談窓口について聞いている部分で、警察の生活安全課という記載を削除した経緯は。この機会に窓口を周知するためにも、記載しておいてよいのではないか。
事務局	生活安全課は過去に市役所にもあり、ややこしくなること、警察は「警察」というイメージが強い為あえて書く必要があるのかを考えての結果。
委 員	様々な部署に同じような相談内容を繰り返し説明しなくてもよいように、なるべく最初から担当につながるよう相談窓口を案内するほうが望ましいのでは。
委 員	どこに相談に行きますか、という問い方であれば交番などの回答もあり得るが、相談窓口を知っていますかという問い方なので、生活安全課を記載しておいてよいと思われる。
事務局	元に戻すことを検討する。
会 長	WEB調査について、この男女調査については初めてとのことだが、庁内の他の調査では実施したことはあるのか。
事務局	2年に1度実施する市民意識調査で、今年度を実施した。
委 員	もし情報があれば、WEB調査を始めたことで紙にはなかった影響があったか伺いたい。
事務局	反対に、紙調査しかしていなかった時代には、WEBの時代になぜ紙回答だけなのか、といった意見が自由回答に書かれているケースはあった。WEB回答について意見があった等は現在のところ聞いていない。
会 長	回答率があがったなどはあるか。
事務局	こういった調査を実施すると、回答数の多さに苦情がくる。市民意識調査ではWEB回答に合わせて設問を削ったため、その苦情は減ったと聞いている。
委 員	パソコンとスマホ、どちらが回答数は多いのか。
事務局	比率については把握していない。今回の調査で比率を把握できるかは確認しておく。
会 長	若い世代からの回答率が上がることに期待したい。
委 員	議題3について事務局から説明を。
	(3) 令和6年度日進市男女共同参画あるある川柳・標語の審査について

	(審議事項につき非公開)
会 長	全体を通して、他に意見はないか。
委 員	(意見なし)
会 長	それでは進行を事務局へお返しする。
事務局	議事進行ありがとうございました。委員の皆様も貴重なご意見ご審議ありがとうございました。いただいた意見を参考に再度検討し、調査票に関しては委員長預かりとさせていただきたい。以上を持って令和6年度第3回男女平等推進審議会を終了する。次回の会議については3月上旬頃を予定しており、あらためて日程調整を行う。